負げねど飯舘!!

かわら版③

No.3
2012年3月11日

愛する飯舘村を還せプロジェクト 負げねど飯舘!!
http://space.geocities.jp/iitate0311/

編集部 渡辺 富士男 〒960-1241 福島市松川町西長壇 8-17
メールアドレス fuyu-no-yama.11@ezweb.ne.jp 電話 090-7568-7392

3月11日になりました。

今、私達村民は果たして、

「何を待つべきなのでしょうか?」

明日に生きる希望?

故郷?

放射能への怒り?

補償? 復興?

今、私達村民は、果たして

「何をすべきなのでしょうか?」

「しあわせ」って?

私は、現在仮設住宅に住んでいる。162世帯、350人と過ごしている。一時間あれば、一巡出来てしまう所は、避難前の地区の世帯数の約2倍。部屋は、家族構成によって1〜3部屋。けれど、とても狭い。

去年の夏は、かなり暑く家の中には居れない状態だった。冬はさぞ暖かいだろうと思ったらそうでもない。いや、かなり寒い。

あの東日本大震災から、まもなく1年になろうとしているが何事も我慢をして、穏やかに生活している人たちが多い。仮設内外の沢山の人たちに支えられ、励まされ、支援されていて有難いと感じているからだ。心の底から感謝をしている一方、満たされない気持ちでいるのも確か。

リレーエッセイ

前回 長谷川 圭子さん から 今回 北原 康子さん へ

「何がしあわせか?」と問われたら、人によって、男女によって、年齢によってそれぞれの答えがあると思うけど…安全な所で、安心して過ごせることが一番なのではないかと最近は特に思う。

美しい風景や澄んだ空気・水。野菜や山菜。虫や鳥。動植物の数々。慣れ親しんだ土地で以前のような暮らしがしたいと望んでいる。

そんな生活がすんなり返ってくるのか?

それはいつなのか? それとも不可能なのか? 答えを急ぎたい。 まだ何とか動けるうちに!

宮内 **北原 康子**

春になる今

私達が、ここまで大きく成長できたのも、温かく見守ってくれた家族、地域の皆様のおかげです。

去年は東日本大震災という、私たちが今まで経験したことのない大きな災害に見舞われました。それと同時に、原発事故の影響で私達の故郷、飯舘村は生活していくことのできない地になってしまいました。皆が故郷を離れ、別々の地で新たな生活を送っています。いつ飯舘の地が元に戻り、安心して暮らせる日が来るかまだ分かりません。しかし、それまでに私達は社会人として成長し続け、生まれ育った飯舘村を復興してしていけるだけの力をつけていきます。

しかしながら、今回の震災では失ったものばかりではありません。日本各地から被災地へボランティアとして来てくださったり、復興への後押しをしてくださっています。改めて「絆」の大切さを感じました。

私達も新成人80名、手を取り合い、社会のため、飯舘のために力を尽くしていきます。

草野　伊丹沢　**熊久保　亮太**

20歳になりまし

「道」

いっぱいの道があって
いっぱいの人が歩く
子供達が居て
自然があって
苦しさや淋しさもある
それでも絶対、
明日につながる
道もある

絵：柴口 正武

50字コメント
松塚　**菅野　幸子**
蓬萊のアパートに住んでいます。ストレスで体調不良です。飯舘がなつかしく感じられます。

50字コメント
八木沢　**大和田　保男**
福島市野田町で家族仲良く暮らしています。大分こちらの生活にもなれ、子供達も明日に向かって頑張っているようです。皆さんも頑張ってください！

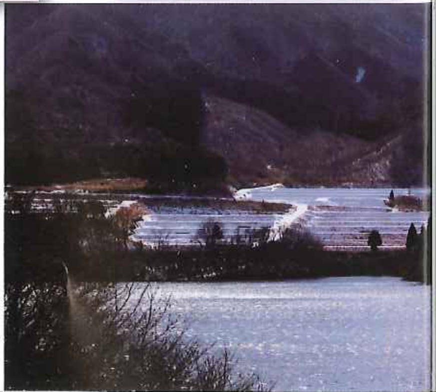
50字コメント
二枚橋　**佐藤　文男**
現在川俣の借り上げ住宅に、家族離れることなく生活しています。環境は変わりましたが一人一人の夢、目標に向き合い希望を持って頑張って行きます。

50字コメント
飯樋町　**菅野　美香**
松川の仮設住宅で親子4人で仲良く過ごしています。夫は飯舘の見回りの仕事をしていて、小学校、幼稚園の子供も元気にスクールバス通学しています。

50字コメント
長泥　**泉　初男**
娘達と松川町の仮設住宅に二世帯で住んでいます。3/11日の事故以来、伐採の仕事もなくなりこれからの事が心配です。

50字コメント
比曽　**菅野　和彦**
福島市岡部で原町へ仕事で通う息子と女房と3人暮らしです。それぞれに忙しくしていますが元気にしていようと思っています。

50字コメント
松塚　**菅野　敬**
松川町の雇用促進住宅にて夫婦二人暮らしです。息子達は福島市内に居て孫達が月2回遊びに来るのだけが楽しみです。いつ飯舘に帰れるのか？と憂うつな毎日です。



した!!

出会いを大切に

今年は大震災に見舞われましたが無事に成人を迎えることができました。諸事情により式への参加は、できませんでしたが、振袖を着て勤務先でお祝いしていただき、とてもうれしかったです。

今まで出会った人に感謝し、またこれからの出会いを大切にしてステキな人生を送りたいです。

二十歳を迎えるにあたりこれからは大人の仲間入りしたということを自覚し社会に貢献できるよう頑張りたいと思います。

飯樋町 **渡邊　美樹**

かわら版誌上 つぶやき…

50字コメント
飯樋八和木 高野 恒子
皆さんの健康を案じながら、福島平野で元気にしています。

50字コメント
飯樋町 永沢 清二
相馬市の一軒家で92歳の父と妻と三人で元気に暮らしています。
皆さんに会える事を楽しみにしています。

50字コメント
伊丹沢 伊藤あけみ
おかげさまで福島駅東口、中央近くに店舗をオープンする事ができました。是非お立ち寄り下さい。

50字コメント
飯樋 前田 高野 五月
今年は孫が増えます。孫が遊びに来られる、安全で安心して暮らせる、もとの飯舘にはやくなってほしい。

50字コメント
蕨平 越川 ユカリ
皆さんお元気ですか?私も伊達保原で何とか、元気にしています。何事があっても笑顔を忘れないで、前に進んで行きましょう!エイ、エイ、オー

50字コメント
草野 宮内 木幡 保雄
週3日の仕事になってしまいましたが、福島八木田で妻と二人で元気にしています。皆さん元気になりましょう。

写真：安齋 徹

お店の紹介

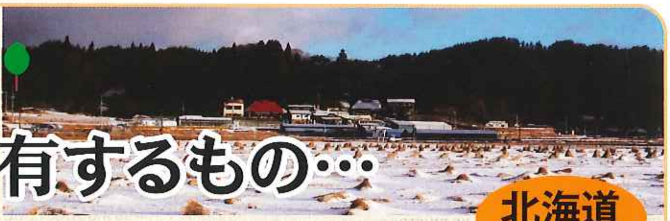
飯舘村のみなさん ご利用下さい

椏久里	福島市野田町	☎024-563-7871
イータテベイクじゃがいも研究会　渡邊とみ子	福島市佐倉下	☎090-2849-2439
飯舘村直売所	福島市松川工業団地仮設内	☎024-567-5166
えびす庵	福島市荒井	☎090-5185-4226
大澤自工	伊達郡川俣町飯坂	☎080-2810-3923
オートショップ山田	伊達郡川俣町柏崎	☎024-573-2988
琥　珀	福島市松川工業団地仮設内	☎090-3981-8710
坂本床屋	伊達郡川俣町飯坂	☎090-9032-2136
佐藤石材	福島市下鳥渡	☎024-573-6148
サロン・ド・ボーテ・ジュン	伊達郡川俣町柏崎	☎024-573-2235
ノエビアビューティスタジオウィズ	福島市栄町	☎024-525-8501
春美容室	福島市霞町	☎080-5577-8863
ラーメン居酒屋　味処エンドウ	伊達市保原町	☎024-576-7083

電話帳を作成しています！

只今、集まった番号で電話帳の作成に取り掛かっております。出来上がり次第、皆様にお届けいたします。しばらくお待ちください。

そんみん元気便



ふるさとを共有するもの…

鹿児島から

鹿児島市　岩切 久美子

６年前に父が他界した時、母は85才でした。その後も一人で暮らしていたので、私は年に3回程、里帰りをしていました。年を重ねる度に、ふるさとのありがたさを感じることでした。緑燃え立つ春の山、紅燃えの秋の山、純白光る冬の山、自然の恵みは私に元気を与え、再び鹿児島に戻してくれました。

まさかこのふるさとがこのような苦難にあうとは誰が想像したでしょうか。悔しくてやるせない気持ちでいっぱいです。飯舘の暮らしを奪われ避難生活を強いられている皆さんの胸の奥の深い思いは如何ばかりかと存じます。

テレビ、新聞に大変な状況の飯舘村が出る度、嘆き悲しみました。東電や国会議員の対応にどれ程、腹立たしかったことか。そんな時、東京の友人から「までいの力」という本が送られてきました。手間暇惜しまずていねいに、オンリーワンの村づくりの姿がそこに有りました。

今迄の人生で深いご縁のあった県内外の友人知人に声をかけまくり「までい力」のことを紹介しました。

飯舘村はマスコミで知られていたのですぐに共感して気にかけてくれました。まさか私のふるさととは思いもしなかったでしょう。

原発を多く持つ福井出身の友人も、広めてくれました。東京の音楽家の友人は、飯舘村支援コンサートをしてくれました。

大変な状況の中にあっても、このプロジェクトをはじめ、知恵を寄せ合い、前向きな活動をされている由、飯舘の底力ですね。

美しい里山の大地とここで暮らす6000人が原発の犠牲にされたこの事実。私は薩摩の地で伝えていきます。

東電や国に負げねで!!

（旧姓 荒　飯樋町）

北海道から

北海道　安立 安子

北海道深川市に住んでいる私は夕食の大根の千切りをしている最中でした。千切りをだんだん厚く切っている自分に気づき、体調の変化だと思ったのです。

数秒後、今までに感じたことのない大きな揺れ、テレビに観る巨大地震の津波は黒々として牙をむき、この世の出来事とは思えない地獄絵。飯舘村も影響はあると思いましたが、

まさに厳しい現実であった。翌、三月十二日原子炉建屋が爆発。原発の安全神話は崩れ、想定していなかった巨大地震が原因とはいえ、飯舘村は原発問題の入口となってしまった。

一部の足元の揺るがない人間からは天罪・自滅・教訓と言われ悔しさと憤りでいっぱいでした。なぜ天罪を受けなければならないのか、出身地を尋ねられる度に悔しさをぶつけていました。八ヵ月後の十一月初め、生れ育った飯舘村を訪ねました。その時の短歌です。

○原発の入口ならむ
　故郷は香りも色も消えて茫々（ぼうぼう）

○村一番の水田地帯は
　茫々（ぼうぼう）と泡立草とススキが尖る

私が感じるには（一）他県は着々と復興してきているが飯舘村はさらに大きな原子力の脅威がある気がしてならない。（二）世論の東北復興の考えは岩手、宮城が中心で福島は、東京電力と福島県民との問題と思われている気がしてならない。

故郷を失う悲しさは飯舘村民でなければわからないでしょう。私達は団結して大きな声を出していく事が大事ではないでしょうか。

最後に三月十一日は姉幸子と七兄紀男の誕生日の日でした。一日も早い飯舘村の復興を願っております。

（旧姓 森永）

募集中!

ご意見、ご要望のある方はぜひ編集部までお知らせください。まってます!
090-7568-7392
〈渡辺富士男〉

編集後記

私ごときが心配することではないのでしょうが、学校のグランド近くを歩いてみても、子供達がスポーツをしている姿がまったく見えてきません。

このままで本当によいのでしょうか?子供達のあのおおらかな、伸びやかな姿がそこにはないのです。いくらグランドを除染したからといってすべての放射能がなくなる訳でもなく…

飯舘村、そしてこの福島県からは、ここ数年、すぐれたスポーツ選手は生まれないのではないか？と想ってしまいます。子供達のすぐれた才能をつんでしまわないだろうかと、危惧してしまいます。子供達の未来の為に今、私達は"何か！"をしなくてはならないのではないかと感じています。（Ｆ）